

【様式】

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名（三重県立伊勢高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		生徒、保護者、地域の期待に応え、信頼される魅力ある進学校を目指します。
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高い志を抱いて、社会に貢献できる人を育てます。</li> <li>・自己の実現のために、自ら学び、考え、行動し、粘り強く努力する人を育てます。</li> <li>・知的探究心にあふれ、情操豊かで創造性に富んだ人を育てます。</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に情報共有と意思疎通を図りながら切磋琢磨し、目指す学校像実現に向け、自己研鑽を重ねる教職員集団を目指します。</li> <li>・生徒の確実な進路実現に向けて、常に授業改善に努め、生徒の学力向上を図る教職員を目指します。</li> <li>・コンプライアンスを遵守し、地域社会の一員として豊かな社会性を身に付けた、信頼される教職員を目指します。</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>&lt;生徒&gt; 大学進学とそれに向けた学力向上のための質の高い授業の確保、部活動の充実、主体的な学校行事による活気に満ちた学校生活を期待している。</p> <p>&lt;保護者&gt; 生徒が楽しく高校生活を送りながらも、国公立大学を中心とする進学希望もしっかり実現できることを期待している。</p> <p>&lt;地域&gt; 文武両面にわたる実績の向上、社会をリードする人材の育成を期待している。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<b>連携する相手からの要望・期待</b>	<b>連携する相手への要望・期待</b>
	<p>&lt;家庭&gt; 生徒の進路希望を実現すること、人間的な成長を促すこと</p> <p>&lt;中学校&gt; 中学生の進路希望に応えられるクラス数を維持しつつ、学校の教育内容を質的に維持すること</p> <p>&lt;地域社会&gt; 社会をリードする人材、及び地域に直接貢献できる人材を育成すること</p> <p>&lt;大学&gt; 明確な目的意識を持ち、基礎学力を身につけ、知的好奇心を維持した生徒を育成すること、及び高大連携を拡大すること</p>	<p>&lt;家庭&gt; 学校との連携強化を進めること、学校経営へ積極的かつ建設的に参画すること</p> <p>&lt;中学校&gt; 目的意識が高く学習習慣のついた生徒がより多く進学すること</p> <p>&lt;地域社会&gt; 学校関係者評価等を通して学校経営へ参画すること、大学等卒業後の受け入れ先となりうる社会的資源を維持・拡充すること</p> <p>&lt;大学&gt; 進学に関する情報提供を積極的に進めること、高大連携を充実させること</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のため、仲間づくりがうまくいかず、傷つきやすい生徒が多くなってきていると感じている。スクールカウンセラー等との連携が益々重要となってくる。また、人権教育を大切にしてもらいたい。</li> <li>・中学校においても、様々な行事ができておらず、これまでの入学生とは異なる生徒が増えてくると思われる。また、オンライン授業を経験し、自立的な学習を余儀なくされた生徒たちを今後どう包み込んでいくか検討してもらいたい。</li> <li>・何のために学習するのか、目的が何か、そこを意識させていかないと形式的なものになってしまうので、明確化しながら取り組んでもらいたい。レジリエンスを高めていくことが必要である。</li> </ul>	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は、大学等への進学を目指して本校に入学してきます。その多くが国公立大学への進学を希望しており、近年は卒業生の約半数程度が国公立大学に進学しています。</li> <li>・部活動は、活動時間が制約される中であっても活発に行っており、全国大会で優秀な成績を収めている部があります。</li> <li>・教職員は、生徒の進路希望の実現のために課外や個別の指導にも熱心に取り組んでいます。</li> <li>・令和4年度から5年間、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクールの第Ⅲ期の継続指定を受け、科学的リテラシーを持ち、持続可能な地域社会に貢献する人材を育成するためのカリキュラムの検証・改善に取り組んでいます。</li> <li>・生徒一人ひとりの能力の伸長をしっかりと支援していく高品質でわかりやすい授業を提供するため、今後もその内容や指導方法について検証し、研究を重ねながら改善を加えていく取組を組織的に進める必要があります。</li> </ul>
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は本校で働くことにやりがいを感じている一方で、業務に多忙感を持っており、生徒の立場に立ったより質の高い教育を行っていくためには、こうした点を改善していく必要があります。職員の満足度を高め、もって生徒の満足度を高めるために、マネジメントサイクルを活用して、仕事の進め方や学校経営の在り方の改善に取り組む必要があります。</li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容や指導方法について研究を進め、主体的・対話的で深い学びにつながる、よりよい教育を提供します。</li> <li>・教育環境の変化に的確に対応するとともに、個々の生徒の希望に応じることができる教育課程を編成し、PDCA サイクルによる継続的な検証・改善に努めます。</li> <li>・第Ⅲ期のスーパーサイエンスハイスクールとして、科学的リテラシーを持ち、持続可能な地域社会に貢献する人材を育成するカリキュラムの検証・改善を進めるとともに、取組を深化させていきます。</li> <li>・マナーやルールを重視し、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会性の陶冶を図ります。</li> <li>・特別教育活動を活性化させ、生徒の自主的な活動を促進することを通して、社会性とリーダーシップを育成します。</li> <li>・生徒の学ぶ力の育成に努めるとともに、多様な学習機会を提供し、生徒の進路実現につなげます。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の総合的な教育力を高めてよりよい教育を提供していくため、教育情報の共有化を進めるとともに、職員が互いに学びあう環境の充実に努めます。</li> <li>・全ての生徒と職員にとって安全・安心で快適な学校であるよう、生徒及び職員を取り巻く環境を整えます。</li> <li>・危機管理体制を整備し、本校に潜在するリスクの軽減に向けた取組を行います。</li> <li>・効率的な学校運営により、職員が健康でやりがいをもって教育活動に専念できる環境づくりに努めます。</li> <li>・組織力の低下を招かないよう、同僚性を高め、職員がお互いの心身の不調を早期発見できる関係づくりを進め、不祥事を生まない環境を構築します。</li> </ul>

#### 4 本年度の行動計画と評価

##### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>・学習指導</p>	<p>・保護者、地域の中・高教員を対象とした授業公開を実施し、学校の教育内容を知ってもらうとともに、教員のより一層の授業力向上を図ります。</p> <p>【活動指標】授業公開 年間3日</p> <p>【成果指標】生徒満足度調査で、「先生は、授業を工夫している。」の肯定的回答が90%以上</p> <p>・「SS 探究」を中心に、すべての生徒に対して主体的・対話的で深い学びを実践するとともに、その手法と成果を地域に還元します。</p> <p>【活動指標】1、2年生全員を対象とした成果発表会の開催、「みえ探究フォーラム2023」への参加</p> <p>【成果指標】生徒満足度調査で、「SSHに関する探究活動は楽しい。」の肯定的回答が80%以上(第1学年、第2学年)</p>	<p>授業公開は5月に1日、11月に2日の計3日実施し、授業力向上に努めた。保護者、中・高教員、教育関係者に公開した。</p> <p>【成果指標】90.7%</p> <p>「SS 探究」の課題研究に関して、12月に中間発表会を行い、3月に最終成果発表会を校内で行う予定である。ほぼ予定通り実施することができた。</p> <p>「みえ探究フォーラム2023」には、口頭発表2点、ポスター発表3点を出席し、口頭発表部門では教育長賞を受賞した。</p> <p>【成果指標】73.2%</p>	
<p>・生活指導</p>	<p>・挨拶運動を通し、生徒間及び生徒教職員間の意思疎通を図るとともに、いじめのない学校づくりに努めます。</p> <p>【活動指標】挨拶運動年30回、いじめ防止アンケートの実施年3回以上</p> <p>【成果指標】生徒満足度調査で、「学校の雰囲気が良く、学校生活が楽しい。」の肯定的回答が95%以上</p> <p>・部活動を奨励し、文武両道を推進します。</p> <p>【活動指標】生徒の部活動参加率80%以上</p> <p>【成果指標】生徒満足度調査で、「本校の部活動は、活発に行われている。」の肯定的回答が95%以上</p> <p>・生徒会活動を活性化し、リーダーシップの涵養に努めます。</p> <p>【活動指標】実行委員会による学校行事の企画・運営</p> <p>【成果指標】生徒満足度調査で、「学校行事は充実している」の肯定的回答が90%以上</p>	<p>予定通りに挨拶運動を実施できている。また、いじめ防止アンケート年3回実施(1、2年生3月に4回目)。Webで実施し、定期的なアンケートのときでなくてもWeb上で相談できる体制である。訴え等があった場合は迅速に対応している。</p> <p>【成果指標】94.2%</p> <p>運動部・文化部ともに県代表として活躍するなど、活発に活動している。</p> <p>【成果指標】98.2%</p> <p>生徒会役員・各実行委員会を中心となり、工夫を凝らして体育祭・文化祭・クラスマッチを実施することができ</p>	

<p>・進路指導</p> <p>・生徒が進路を考えるための視野を広げる機会を提供します。 【活動指標】卒業生による大学紹介、出前授業・大学説明会の実施 年1回以上、卒業生講演会(ようこそ先輩)の実施 年1回10講座以上 【成果指標】生徒満足度調査で、「生徒の進路を考えるための機会や行事が設定されている。」の肯定的回答が95%以上</p> <p>・保健指導</p> <p>・全ての生徒が心身ともに安定した学校生活を送ることができるよう、教育相談・健康相談の充実に努めます。 【活動指標】スクールカウンセラーによるカウンセリング 年32回、養護教諭による教育相談・健康相談 適宜 【成果指標】生徒満足度調査で、「学校は教育相談・健康相談の機会が充実している。」の肯定的回答が90%以上</p> <p>・美化指導</p> <p>・全ての生徒と職員にとって安全・安心で快適な学校であるよう、生徒及び職員を取り巻く環境を整えます。 【活動指標】美化点検の実施 随時、校内外清掃活動 年1回、安全点検 年2回 【成果指標】生徒満足度調査で、「生徒と職員は、校舎内外の清掃活動に積極的に取り組んでいる。」「学校は、校舎内外の環境整備に努めている。」の肯定的回答がいずれも85%以上</p>		<p>た。 【成果指標】88.6% 6月に卒業生に協力してもらい、在籍している大学紹介を実施した。10月に出前講座(2年生9講座)、ようこそ先輩(1年生13講座)を実施し、進路実現に繋がった。 【成果指標】97.3%</p> <p>スクールカウンセラーによるカウンセリング32回、養護教諭による教育相談・健康相談を適宜行い、学年や特別支援コーディネーターとも連携したきめ細やかな対応を行った。 【成果指標】93.5%</p> <p>生徒主体の校内外清掃活動、安全点検を目標通り実施した。 【成果指標】86.3% 【成果指標】85.3%</p>	
--	--	---	--

### 改善課題

- ・学習指導に関する生徒満足調査では、今年度も成果指数を達成することができたが、主体的・対話的で深い学びの視点から、専門家を交えて引き続き改善していく必要がある。また、SS探究における取組をカリキュラム・マネジメントの核に据え、すべての教科・科目やその他の教育活動における改善に生かすことができるよう研究を進めていきたい。
- ・授業の資料、学習課題の配布やアンケートの実施はICTを活用する体制が整っている。BYOD端末については、SS探究では積極的に活用できているが、一方で、授業での活用については限定的であるため、他校の活用方法も参考に校内での情報共有を図り、より一層の活用を目指していきたい。
- ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、今までの制約がほぼなくなり、学校行事を平常に戻すことができた。今後も生徒が主体的・協働的に取り組めるような学校行事の拡充を進めていきたい。
- ・部活動に関しては運動部・文化部とともに全国大会等へ県代表として出場をはたすなど各部活発に活動した。今後も文武両道を目指していきたい。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>・組織力の向上</p>	<p>・学校の総合的な教育力を高めてよりよい教育を提供していくため、教育情報の収集、共有化を進めるとともに、職員が互いに学びあう環境の充実に努めます。</p> <p>【活動指標】面談週間の実施 年4回、情報交換会の実施(1年生2回、2年生1回、3年生3回、ただし、3年生は進路判定会議を含む)、他の教員の授業を参観した教員の割合 100%</p> <p>【成果指標】生徒満足度調査で、「適性や希望に応じた進路指導や相談が適切に行われている。」の肯定的回答が95%以上</p>	<p>面談週間は年4回実施できた。情報交換会は各学年で予定回数を実施し、生徒に関する情報共有を行い、様々な事象に対して、早期にかつ組織的に対応することができた。他の教員の授業を参観した教員は100%であった。</p> <p>【成果指標】94.8%</p>	
<p>・信頼される学校づくり</p>	<p>・事例研究・職員研修等を通して、コンプライアンスに対する職員の意識を高めます。</p> <p>【活動指標】職員研修の実施 年1回以上</p> <p>【成果指標】不適切事案の発生ゼロ</p> <p>・本校が保有する情報を適切に管理します。</p> <p>【活動指標】セルフチェックシート等を利用して、情報の管理状況の点検 年1回以上</p> <p>【成果指標】不適切事案の発生ゼロ</p>	<p>分掌・学年単位でコンプライアンスミーティングを実施し、意識の向上を図った。</p> <p>【成果指標】0件</p> <p>管理簿の活用の徹底を実施し、またセルフチェックシートを活用するなど個人情報情報の適切な管理に繋がった。</p> <p>【成果指標】0件</p>	
<p>・働きやすい学校づくり</p>	<p>・本校の有効な取組を持続可能なものとするため、総勤務時間の縮減を図ります。</p> <p>【活動指標】会議の短縮のため、資料の事前配布、終了時刻の設定。部活動ガイドラインに沿った部活動の適正運営。定期考査期間、長期休業期間における定時退校・休暇取得の推進。</p> <p>【成果指標】放課後開催の会議のうち60分以内または勤務時間内に終了した会議の割合90%(R4年度89%)、週1回の休養日を実施している部の割合100%(R4年度100%)、定期考査期間と長期休業期間に定時退校または休暇取得を実践した教員の割合100%(R4年度100%)、一人当たりの月平均時間外労働時間 前年度比減(R4年度24.7時間/月)、年間の休暇取得日数 一人当たり20日以上(R4年度一人当たり24.2日/年)、年360時間、月45時間を超える時間外労働者数 0人(R4年度25人)</p>	<p>事前調整や終了時刻の設定を適切に行い、会議の時間縮減に努めたが、目標達成には至らなかった。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後開催の会議のうち60分以内または勤務時間内に終了した会議の割合が83.3%</li> <li>・週1回の休養日を実施している部の割合が100%</li> <li>・定期考査期間と長期休業期間に定時退校または休暇取得を実践した教員の割合が100%</li> <li>・月あたりの時間外労働時間:27.6時間(2.9時間増)</li> </ul>	

<p>・情報提供による信頼の構築</p>	<p>・本校の学校情報を家庭、地域に積極的に発信します。  <b>【活動指標】</b>オープンスクール等で中学校、教育関係者への説明会の実施 年4回以上、生徒、保護者、地域の求める情報を積極的に提供  HPの更新月1回以上  PTA 伊勢高広報誌発行のフォロー 年3回  <b>【成果指標】</b>オープンスクールの参加者 前年度(460人)比増、生徒満足度調査で、「学校は、生徒の様子や保護者や地域に情報提供している。」の肯定的回答が90%以上</p>	<p>・休暇取得日数は23.9日  ・時間外労働時間月45時間超の人数は25人。  中学校の説明会へは積極的に参加した。オープンスクールの参加者は429名であった。  HPの充実、PTA広報誌の活用、ICTを利用し積極的に情報発信を行うことができた。  <b>【成果指標】</b>90.0%</p>
----------------------	---	---

**改善課題**

・デジタル採点システムの活用やスクールサポートの活用により業務の効率化を図ってきたが、時間外労働時間が月45時間を超える職員が昨年度より増加した。総勤務時間の縮減を実現するため、業務の内容を精選に取り組むとともに、メリハリのある働き方を意識した職場づくりを進めていきたい。またズレ勤等の利用を促進し「休みを取りやすい」、「助けを求めやすい」など風通しの良い職場の雰囲気づくりにも努めていきたい。

・少子化が急速に進行している伊勢・志摩地区において、HP等の活用をさらに促進し、情報発信を進めていきたい。進路説明会等には松阪地区や牟婁地区にも積極的に参加するとともに、中学1、2年生を対象にした説明会を実施していきたい。

**5 学校関係者評価**

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入試選抜の方法が、総合型・推薦型・一般型と多様化するなか、生徒の適性を見極めながらSS探究で培った力を生かせるよう伊勢高校ならではの進学指導の在り方を研究してもらいたい。</li> <li>・「地域のPBL」や「SS探究」が体系的に学校全体で取り組むことができしており、生徒の「主体的な学び」につながっていると思われる。一方、そういった取組における探究のアプローチが教科の学びにつながるよう、授業改善を進めてもらいたい。</li> <li>・働き方改革に対して、成果指標のうち多くのものが達成できていない。業務の効率化を図るために大きな改革が必要である。</li> </ul>
----------------------------	--

**6 次年度に向けた改善策**

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>SS探究における取組をカリキュラム・マネジメントの核に据え、すべての教科・科目やその他の教育活動における改善に生かすことができるよう研究を進めていきたい。</p> <p>BYODが3年目を迎え、すべての学年が端末を保有するため、教職員が授業でICTをさらに活用できるようスキルアップを図るとともに、個別最適な学びにつながる活用を促進していきたい。</p> <p>学習不安やさまざまな悩みを抱える生徒が一定数いることから、教育相談体制をさらに充実させ、悩みを抱える生徒へのアプローチについて教職員が研鑽を積む機会を創出していく。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>総勤務時間の縮減を図るため、部活動指導員やスクールサポートスタッフなどの外部人材を積極的に活用するとともに、業務内容の精選に学校全体で取り組んでいきたい。ま</p>

た、学校休校日を適切に設定し休暇を取得しやすい環境を整えていきたい。デジタル採点システムの活用を学校全体に広げ、校内業務のDX化を推進していく。